

放送日 令和4年6月1日（水）
担当者 福祉課主査 角田 紘希

おはようございます。保健福祉部福祉課の角田紘希です。私は令和2年度と3年度の2年間、姉妹都市である、広島県の東広島市へ派遣をされておりました。

東広島市では、産業部産業振興課に配属され、主に中小企業の支援に携わり、ビジネスサポートセンターの運営やコロナ関連の補助金業務の担当をさせていただきました。慣れない業務で、上手くいかないことも多々ありましたが、周りの方のサポートもあり、自身の職責については、何とか果たせたのではないかと考えています。

また、他方では、様々な方と交流をする機会に恵まれ、所属部署ひいては、市役所内外を問わず、本当に多くの方と交流をすることができました。東広島市最後の出勤日には、多くの方に送別をしていただき、職場の皆さんと号泣をしたことは、良い思い出となっています。

「じゃけえ」・「ぼり」・「たいぎー」。当たり前には広島弁が飛び交う職場で過ごした2年間。多くのことを経験し、自分なりに成長することができたと感じています。今後は、この経験を活かし、北広島市の更なる発展に貢献していきたいと思っています。

放送日 令和4年6月2日(木)
担当者 高齢者支援課主査 山田 恭平

おはようございます。保健福祉部高齢者支援課の山田恭平です。

私は平成25年度に採用となり、今年度4月より昇格し、主査として高齢者支援課で主に介護保険給付業務、介護保険事業の運営業務を担当しております。前の課から異動してきて2ヶ月が経ちましたが、周りの優秀なスタッフに支えられながら業務をこなしています。

私は業務を進めていくうえで大切にしていることがあります。それは「コミュニケーションを密にとる」ということです。

皆さんは業務を進めるにあたり、最小限の確認のみで業務を最後まで進めてた結果、成果物が求めていたものと違ったという経験はないでしょうか？私は業務の進捗を課内で共有することは、他の人から自分では気が付けない意見が聞けたり、成果物の軌道修正ができて、結果的に求める以上の成果物を作り上げることができると考えております。

まだまだ経験が浅く、頼りない私ですが、コミュニケーションを大切に、そして主査職として部下が安心して業務に取り込むことができるよう、相談しやすい職場環境づくりを意識して仕事に臨んでいこうと思います。

放送日 令和4年6月3日（金）

担当者 参事（ワクチン接種調整担当）主査 千葉 啓

おはようございます。ワクチン接種調整担当の千葉です。

本日は、この朝のスピーチにおけるテーマのひとつでもあるまちづくりに対する思いについてお話させていただきます。

まちづくりについて考えるにあたり、まずはまちとは何かということについて考えた時に、私は、まちとは人だと思っています。

例えば明日この場所に建物も道路も何もかもなくなったとしても、この土地のことを誰かが大切に想う限り、この北広島というまちがなくなることはないと思います。

まちが人だとしたら、まちづくりはきっと、このまちにかかわる人たちに、少しでも幸せになってほしいという気持ちを形にすることだと思います。

道路や公園を作ったり、夢のある一大プロジェクトを成功させることなどももちろん素敵なまちづくりの仕事ですが、そのような仕事に直接かかわっていないとしても、窓口対応も、内部の調整も、ペンを買う経理も、申請書の印刷も、その辺のゴミを捨てることも、そのひとつひとつが、このまちにかかわる人たちの幸せを願ってする仕事はすべて、まちづくりなのだと思います。

放送日 令和4年6月6日（月）
担当者 保険年金課主査 佐藤 晶代

おはようございます。保険年金課 国民健康保険賦課担当の佐藤晶代です。

私は、「時間外を極力しない」ことをモットーに仕事をしています。

それは、まだ子供が小さいので家族と過ごす時間を確保するためでもありますし、何よりも自分が面倒くさがり屋だからです。

この性格が、良い意味で、「もっと効率的な方法はないか」「今のやり方に無駄なところはないか」を考える源となっています。

目的が分からずただ言われたとおりに作業すると、結果的に何が必要な情報かを見失い、時間がかかった割には要領を得ないということがあり得ます。

なので、私は作業を始める前には必ず、「何のためにするのか」「最低限必要な情報は何か」「必ずやらなければならないこと」「必ずやらなくてもいいこと」などを明確にすることを心がけています。

今後も、引き続き仕事の効率化に努めるとともに、エクセルの数式やショートカットキーを勉強するなど、少しでも時短に繋がる技を身に付けていきたいと思っています。

放送日 令和4年6月7日（火）
担当者 保険年金課主査 木下 佑介

おはようございます。保健福祉部保険年金課の木下です。突然ですが、みなさんには理想の上司像というものがありますか？現在の部署が6か所目となる私は今まで様々な上司と出会ってきました。頭の回転がとても速い上司、男気にあふれた上司、周りから「資格マスター」と呼ばれる上司などなど、多くの人の下で学ばせていただきました。そんな私が理想の上司像としてあげるのは、私が入庁したときの主査です。

私が入庁した2013年、私が配属された部署は当時の市役所一を誇る激務部署ということもあり、非常に刺激的な毎日を過ごしていたことを今でも覚えています。そんな厳しい状況下にあっても、一番忙しいはずの当時の主査は、常に笑顔で周りにしっかり気を配り、すべてを自分事として妥協をせず丁寧に対応しており、その姿は私にはとても輝いて見えました。また、親身になっての指導や、私がミスした時には嫌な顔一つせず真っ先に頭を下げてくださいたりなど、個人的にも大変お世話になり、充実した新人時代を過ごすことができ、今でも感謝しかありません。

それから9年後、図らずも当時の主査と同じ年齢・役職となりました。当時の主査のようににはできないかもしれませんが、課長を助け、部下を導けるよう、しっかりと取り組み、私が主査で良かったと周りの人に思ってもらえるようになりたいと思います。

放送日 令和4年6月8日（水）

担当者 参事（相談担当）主査 田淵 亜紀

おはようございます。福祉総合相談室の田淵です。私は、保健師で採用されていることから異動先も異動回数も一般職の方に比べると少なく、職場内での人間関係は狭いほうだと思います。でも3月まで在籍していたワクチン接種調整担当では、今までになく頻回な人事異動、業務応援があり、たくさんの方と一緒に仕事をすることができました。おかげで職場内での今までになく人間関係が広がりました。福祉総合相談室に異動した後も、コロナ禍ではありますが、ご飯に誘ってもらったり、私が退職することになったら送別会を開くと今から約束してくれたりした方もいます。気を使ってもらっているのかもしれませんが、とてもうれしく思っています。ワクチン接種調整担当の仕事は、今まで経験したことのない業務で大変なこともありましたが、振り返ると貴重な経験で充実感もあります。そして、仕事に直接かかわらない部分でも、お友達と言わせていただきますが、お友達が増え、とても良かったと思っています。今の部署では、高齢者支援課と福祉課の業務の兼務発令を受けていますので、仕事幅も人間関係も広げつつ頑張りたいと思います。

放送日 令和4年6月9日（木）

担当者 子ども発達支援センター主査 小川 綾

おはようございます。子ども発達支援センターの小川綾です。私は、北広島駅近くの「北広島エルフィンビル」3階子ども発達支援センターで業務にあたっております。ビルの4階は、屋外園庭となっており、屋上から市内を一望できることはもちろんのこと、建設中のボールパークの様子を見ることもでき、距離として少し遠めですが、大きなクレーンが何台も動き作業している様子は圧巻の景色です。当センターをご利用の市民の方々とその景色を見ながら、話しを弾ませています。完成を心待ちにしています。

さて、当センターでは、お子様が健やかに育ち、ご家族が安心して子育てや生活を営めるように、市役所内部の連携はもとより、市内・市外の関係機関と密な連携を行っております。1年間の当センター全体の関係機関との連携数は延べ約550件以上、また当センターの事業全体の市民の方の利用人数は延べ約3,500人以上と多くの関係機関や市民の方々に利用していただいています。お一人お一人、ひと家庭ひと家庭のニーズに合わせた支援を行うことは並大抵のことではありませんが、市民の皆様や北広島市で育つお子様たちの将来のために、今後も真摯に業務に当たっていきます。

放送日 令和4年6月10日（金）

担当者 地域子育て支援センター主任保育士 高屋 理恵

おはようございます。地域子育て支援センター「あいあい」の主任保育士高屋理恵です。3月まで勤務していたすみれ保育園から「あいあい」に異動となり2か月が経ちました。長年勤務した保育園と業務が変わり、戸惑うことも多いのですが、スタッフや様々な課の方に助けられながら業務にあたっています。今回は「あいあい」の「みんなの広場」についてお話しします。親子で自由に利用できる「みんなの広場」は開設以来多くの親子に利用して頂き、「あいあい」の顔とも言えます。現在、コロナ対策で来館を市民と帰省中の方に限定していますが、相談件数の割合は増加しています。スタッフは来館された親子とのやりとりの中で「これでいいのかな」という悩みをさりげなく聞き取り助言します。「話したらすっきりしました」と言って帰られる親御さんもいます。今来館される方の大半は、コロナ禍の様々な制限の中で妊娠・出産した方々です。「みんなの広場」は籠りがちだった親子にとって、安心して利用できる場であるとともに、悩みや不安を聞いてお母さんに元気になってもらう場所として利用して頂きたいです。そして来館された方々が子育てを楽しいと思えるように支援したいと思います。

放送日 令和4年6月13日(月)
担当者 総務部付主査 今井 寛元

おはようございます。道央廃棄物処理組合施設課主査の今井です。

私は今、千歳市根志越に建設中の焼却施設の工事監理や、防衛省への補助申請を担当しています。令和元年11月から令和6年7月までのおよそ5年間かけて、総工事費約117億円の大型工事になります。当然、この大きな事業に関わる人の数もとても多く、私が派遣された今年の4月は、派遣先である組合はもとより、組合を構成する2市4町の方々や、工事を請け負っているJV、工事監理を行っているコンサルなど、たった1ヵ月で名刺が1箱なくなるくらいの多さでした。

おそらく新人職員の方も、似たような思いをされていると思いますが、初めは顔と名前が一致せず、苦労しました。

私は幸運にも出向や派遣など、人との出会いが多く、新しい環境に行く際に、一つ心がけていることがあります。それは、人を第一印象で判断しないことです。もちろん印象が変わらない場合もありますが、良い意味でも悪い意味でも裏切られることが多いと感じます。信頼できる仕事仲間を見つける上で、表面に惑わされず相手をよく知ることは重要なことではないでしょうか。

放送日 令和4年6月14日（火）
担当者 商工業振興課主査 勝谷 亜美

おはようございます。経済部商工業振興課の勝谷亜美です。

早いもので、私は今年で勤続10年目を迎えました。今までの市役所生活を振り返ってみると、大変だったなと思うことも多く、皆様もこうして毎日当たり前のように出勤して仕事をしていると思いますが、何十年も働き続けるということは、そう簡単なことではないと思います。そんな中で、私が日々意識していることは、心の健康についてです。

私が日頃ストレスを溜め込まないように心掛けていることは、人に話を聞いてもらう、すぐに相談するということです。「この前こんなことがあってさ」「このことで悩んでるんだよね」と誰かに想いを吐き出すことで、気持ちがスッキリしたり、自分の頭の整理にもなりますし、何より、他者に自分の話を共感してもらうことで安心感を得ることもできます。

特に若手職員の皆様は、様々な悩みを抱えている方がたくさんいると思います。そんな時には、上司や同僚、同期職員など、周りの人を頼ってみてください。ストレスや悩み事は、小出しに吐き出すということを意識して、心の健康を保ってほしいなと思います。

放送日 令和4年6月15日（水）
担当者 下水道課主査 深尾 大輔

おはようございます。水道部下水道課の深尾です。今日は入庁して間もない頃の思い出深い出来事を紹介させていただきます。

当時私は建設部で公園の古くなった遊具などを改修する工事を担当していました。公園の改修に当たっては、地域住民の方々のニーズを幅広く取り入れるため、意見交換会が行われます。ある公園の改修に伴う意見交換会に参加していた親子から、「ばら公園の新しい遊具みたいに楽しい遊具を設置してほしい」という意見がありました。ばら公園の遊具は私が入庁して初めて担当した工事で設置したもので、先輩職員に指導していただきながらなんとか完了することができた思い出深い遊具です。それまでは、与えられた仕事をこなすことに精一杯で、何のために・誰のために仕事をしているという意識が希薄だった気がします。しかし、その親子の言葉を聞いて、自分の仕事は市民生活に直結しているということ、市民のためにより良い仕事をしなければいけないということ、また、仕事に対するやりがいと責任に気が付くことができました。今は年に数回小学生の娘を連れてばら公園に遊びに行くことにしています。設置から十数年が経過し、たくさんのお子さんに利用いただき少しずつ老朽化が進む遊具を見て「少しは子供の成長に役立つ仕事ができただかな」「今の自分は市民のために良い仕事ができているのかな」と初心に帰り自分の仕事を見つめなおすことのできる場所になっています。

放送日 令和4年6月16日(木)
担当者 議会事務局主査 福嶋 大

おはようございます。議会事務局の福嶋です。私が担当しております、議会事務局の業務を紹介したいと思います。

議会事務局の業務は、大きく分けると議事、調査、庶務の三つの部門に分けられます。

議事部門は、本会議や委員会などの会議運営に関する業務、調査部門は、議員の政策立案や調査研究のサポートに関する業務、そして庶務部門は、議長の公務の調整等の秘書事務、議会事務局内の庶務に関する業務です。

今紹介した3つの業務はいずれも、議会や議員の活動のいわば裏方としての仕事であり、議会を補佐する機能があるとされています。

また、議会では市のこれから取り組むべき課題、また推進されてゆく各種事業など、リアルタイムで新鮮な政策を目の当たりに出来る場所であり、議会事務局職員でなければ味わえないものであるから、日々とても勉強になっています。

本日10時から一般質問が予定されており、議会の様子は、インターネット中継されています。市政に関するタイムリーな問題を学べる場所でもありますので、お時間がございましたら是非見ていただきたいと思います。

放送日 令和4年6月17日（金）
担当者 文化課主査 吉川 航平

おはようございます。文化課の吉川です。

4年ぶりに文化課に戻り、文化振興・施設管理の担当主査として従事しております。

令和4年度は新規採用の方が30名以上あり、あまり出先の芸術文化ホールのことを知らない方も多いかと思いますので仕事の内容と意気込みを絡めて話をさせていただこうと思います。

北広島市芸術文化ホールは平成10年に建てられた文化ホールで大きくホールと図書館に分かれた建物となっております。

ホール運営委員会主催のもと、昨年では、落語・影絵・クラシック・美術展など多岐にわたった催し物が開催されております。

私が文化振興の担当していた当時には2020東京五輪の開会式のピクトグラムで話題になった、が一まるちよばがホールを訪れていますが、その中でピクトグラムは、多様な人にそのものを見るだけで何を表しているか、何が言いたいのか簡単に理解できる素晴らしいサインで、これは仕事にも通じるものがあると私は考えております。仕事において上司、部下、市民など多様な方々と接することがある中で、全ての人に分かりやすく簡単に理解ができるような説明や書類作成などを私自身、今現在できているか、正直自信がありません。

そのため今後、‘何事においても誰にでも理解できるように’を目標に日々の業務を行い、市民サービスの充実につながるよう努めてまいりたいと考えております。

話は芸術文化ホールについてに戻りますが、コロナ禍ということもあり、イベントが少なく寂しい時期ではありますが、今年度もホールでは催し物が開催されていますので、皆さんも機会があれば非日常を体験しに来館していただければ幸いです。

放送日 令和4年6月20日(月)
担当者 社会教育課主査 大久保 竜二

おはようございます。教育委員会教育部社会教育課の大久保竜二です。

私が現在の課でスポーツ関係の仕事を行っておりますが、仕事をする上で重要だと考えている「視点」のお話をさせていただきたいと思います。

虫の目、鳥の目、魚の目という言葉は、ご存じの方が多いと思います。

「虫の目」はミクロの視点で、細部までこだわって仕事をするという視点。次に「鳥の目は」、マクロの視点で、広い視野を持って全体を俯瞰する視点。～さらに言うと全体を捉えて、何が重要か、何を優先すべきかを総合的に見る視点です。

そして「魚の目」は、潮の流れを見極める視点で、世の中や世界の情勢など、トレンドや状況を把握していく視点のことです。

これら3つの視点のほかに、「コウモリ」の目というものもあります。常にさかさまにぶら下がっているコウモリのように、逆の立場で見る、逆の視点から見る、さらに、発想を変えるという視点のことです。今ある前提を疑う視点であるとも言えます。

最近では今挙げた4つの視点のほかに「ワシの目」の視点も重要であるとも言われています。

～これは、雲の上を飛ぶワシの視点を意味し、インターネットの世界に雲を意味するクラウドという言葉がありますが、クラウドの上を飛ぶワシのような目で、デジタル情報を適切に活用していくということも、今の時代に必要な視点であると思います。

これらの視点を同時に持つことは難しいことではありますが、仕事に行き詰まった時に、視点を変えて、視点を使い分けて、仕事に活かしていければと思います。

放送日 令和4年6月21日（火）
担当者 消防課主査 南谷 顕史

おはようございます。消防署消防課査察担当主査の南谷顕史です。

私は、各事業所にお邪魔し、消防用設備が基準に従い、適切に維持管理されているのかなどを、検査し指導しています。また災害現場では、主に消防隊として活動しています。

現在まで、消防隊、救助隊、救急隊と非常に多くの現場経験をさせていただき、その知識、技術、経験を現在、後輩職員に伝えるべく、自分にしかできない事を考え、日々仕事を進めています。その中で初歩的ですが、気を付けている事をご紹介します。

一つ目は挨拶です。適切な声量で気持ちよく行う事です。挨拶は、第一印象を決める重要なものです。

二つ目は、物事や相手に関係なく、目的、意図を説明することです。説明することで、相手を納得させ、高い成果を生むと考えます。

三つ目は、話をキチンと聞くことです。話を最後まで聞いて、自分の中に落とし込み、相手の意図を的確に汲み取ることで、効率的に物事が進むと考えるからです。

以上の事を意識して消防職員として、北広島市職員として、進化し続けたいと強く思い日々の仕事に取り組んでいます。

挨拶は第一コミュニケーション

背景の伝達は効率的コミュニケーション

聴く力は愛情コミュニケーションです。

放送日 令和4年6月22日（水）
担当者 消防課主査 樋口 嘉彦

おはようございます。消防署の樋口嘉彦です。

消防署での取り組みを一つ、この場を借りて紹介したいと思います。
消防署では市内の小学3年生を対象に、社会科教育の一環として消防署見学を実施しております。

内容として、庁舎内の見学説明や消防車両の見学説明といった流れで1時間程度の見学を実施しておりました。しかし、近年のコロナ情勢により、庁舎内の見学が制限され、消防車両内への乗車体験も出来ないという状況となり、子供たちが期待を膨らませ見学に訪れる中、期待通りの見学とはならない実情がありました。そのような制限の厳しい中でも、興味の湧く見学にしなければならないと考え、内容をがらりと変え、職員による実災害をリアルに再現した訓練の展示や、ドローンによる上空からの生徒の集合写真の撮影。実際に職員が現場で使用している消防ホースでの放水体験という、屋外で行う体験・見学内容としたところ、各学校の生徒及び先生方からも好感触となり、見学後に職員から消防署に興味を持ち「将来の消防士を目指したいと思った子。」という問いに多くの生徒が手を挙げ応えてくれるようになりました。

コロナによる屋内の使用制限がかかるといった環境によって、新たな試みが生み出され、より良い見学会となったという一例を紹介させていただきました。

放送日 令和4年6月23日(木)
担当者 救急課主査 間 正実

おはようございます。消防署救急課救急担当の間 正実です。

私は4月から救急課に配属になり、市民の皆様の健康を守るために、スタッフと一緒に訓練・学習を行っている毎日です。

北広島市で新型コロナウイルス1例目が確認されてから、早くも2年が経過しました。

これに伴って救急出動件数も増加傾向となっています。令和2年4月・5月の2ヶ月の救急出動件数で304件、令和4年4月・5月の2ヶ月の救急件数が393件で、実に2年間で89件も増加しています。1ヶ月平均で44.5件の増加になります。

消防署は、新型コロナウイルス関連に出動することがあります。出動に対する感染対策は万全を期していますが、私たちも人間ですから、「このまま帰宅してもよいのか」、「自分は感染をしていないのか」など、自問自答をし、不安な気持ちになり、気が付かないうちに深いストレスを抱えているスタッフがいるかも知れません。そういった繊細な部分に、敏感に気づき、配慮ができ、相談をされる先輩であり上司になれるように、普段からスタッフとのコミュニケーションを図っていきたいと思っています。

放送日 令和4年6月24日（金）
担当者 救急課主査 齊藤 洋貴

おはようございます。本年4月より消防署救急課主査の職を拝命しました齊藤です。

現在消防署では来年3月のボールパーク開業に備え、日々ボールパークにおける災害発生時のマニュアル整備や図上訓練等を実施し、開業に向けた準備を着々と進めている所です。さて、今回はボールパークに関連して、私の息子が所属している野球少年団のチーム目標についてお話させていただきます。

息子の所属している野球少年団の6年生が設定したチーム目標の中に「誰かがやるだろうをやめる。」という目標があり、この言葉に大変感銘を受け、プライベートや仕事においてもこの言葉を実践出来るよう心がけています。「誰かがやるだろうをやめる。」言葉だけを聞くと簡単に聞こえますが、実践していくとなると大変で、色々な所への気配り、目配りであったり、放置されている問題点にも率先して取り組んでいく必要があります。一人一人が意識を持つことで組織、延いては社会も変えられる言葉であると思い、この場で皆さんへご紹介させていただきました。すでに実践している方もいらっしゃるかもしれませんが、皆さんも実践してみてはいかがでしょうか？

放送日 令和4年6月27日（月）
担当者 予防課主査 竹本 充志

おはようございます。消防本部予防課の竹本です。

みなさん、いきなりですが「消防」といえばどのようなイメージでしょうか？おそらく多くの方が消防車や救急車、救助隊を思い浮かべたと思います。

ですが、私の現在の部署は予防課の「予防・設備担当」という部署です。簡単ですが私の主な業務の1つを紹介させていただきます。この担当は、これから建つ建物の設計の段階で消防法や条例に基づき火災予防上必要な設備を適正に設置させるという業務です。

私はこの業務に大変誇りを持って携わっております。その理由は、消防全体の中で最も最初に「未来の火災を防ぐことができる」部署だからです。

今年度中にボールパークが開業し、多くの方々が来場します。北広島市内には新規の建物が多く建設されると思います。

これからの何千人、何万人の命や財産を救うためにも1つ1つの新たな建築物に対し、慎重かつ適正に責任を持って向き合い、未来の火災を防いでいきたいと思っております。

最後になりますが、火災を未然に防ぐ部署それが「予防課」です。

放送日 令和4年6月28日（火）
担当者 防災危機管理室次長 池田 恵一

皆様おはようございます。

総務部次長の池田恵一です。

今年3月末に防衛省を退職し着任しまして、早いものでもうすぐ3ヶ月が経過しようとしております。

役所における業務内容は防衛に係る渉外担当で、主に今年度をはじめ防衛省所管の補助金を獲得するための要望活動や関係機関、近隣自治体との連携を図るべく連絡調整を強化し、役所内においては更に各部署から要望のあった事業の採択を目指し、まちづくり事業などに必要な経費を獲得するための関係機関等への要望活動を逐次行っています。

また、自衛隊の訓練・演習等防衛施設により生ずる障害をその施設周辺の住民のみに受任して頂くことは、公平性に欠ける観点から障害を防止し、又は軽減するための「防衛施設周辺の整備等に関する」法律に基づき農林用施設の防災工事や道路整備の助成、学校の防音工事の助成、民生安定施設の助成の安全対策として、周辺住民の生活の安定と福祉の向上に寄与する各種施策を継続して実施しております。

特に防衛施設に係る周辺対策補助事業に関しましては、今年度具体的には継続事業として、防災食育センター事業を始め道路補助事業など市民の皆様の生活に直結する民生安定に係わる一旦を、進めて行くことが渉外担当の職務だと考えております。

他方で、採択後の補助事業完成後は、法律に基づき、適正に事業が実施されているかどうかを判定する国の機関である会計検査院所管の検査を受検しなくてはなりません。それらを滞りなく進めて行く上でも、職員の皆様のご協力とご支援あつての賜物と考えております。

私から、特に若い職員の皆様にお伝えしたい事は、これまでの人生経験を踏まえ、日常生活の中で仕事とプライベートは人にとって不可欠なものです。それらのON、OFFの生活スイッチを上手に効率よく切り替えていく事が「コツ」だと思っております。この「コツ」が上手く回る事によりいつしかストレスを溜めず心身共に健康でより楽しい仕事ができるものです。人生100年時代と言われている言葉のとおり、一生涯長いお付き合いとなります。今般のコロナ禍において仕事を行う上での「コツ」は周りの上司同僚後輩とコミュニケーションを交えながら、時には苦あり楽ある中で、仕事、プライベートといった切り換えを行う事が必要だと考えています。

今後、これまで国の役人人生の中で培った経験を活かしつつ、微力ながら参考のアドバイスになればと思っております。

放送日 令和4年6月29日（水）

担当者 総務課 河野 潤

おはようございます。総務部総務課の河野潤です。

来月からみずがめ座やペルセウス座などの流星群が観測シーズンとなります。私自身は、望遠鏡を持っていないので、双眼鏡で眺めることを毎年楽しみにしています。

ここで、宇宙に関するロケットの開発者ロバート・ゴダードの言葉を紹介します。「昨日の夢は、今日の希望であり、明日の現実である。」というものです。

ここで、夢と希望の違いとは何でしょうか。

答は「受動的か、能動的か」の違いです。

自分は仕事に対して受け身になることが多いので、意識の仕方から変えていきたいと思っています。

もう一つ、高校時代に「なるほど」と思った小説の言葉を紹介します。「問題を解くことが人間の能力ではない。人間の本当の能力とはなにが問題なのかを発見することだ。」

当時、問題解決型の「知」に漬かっていた自分にとって現実感は無いものの大きい納得感がありました。

それから6年後、例規の改正や経費の支払いに携わるようになり「この例規を改正する理由は何か、この支出は適正なのか？」を考えることが大事」という指摘を課長や主査から頂き、この言葉の意味を再度実感しています。

放送日 令和4年6月30日(木)

担当者 総務課 大野 凜

おはようございます。今年度4月より採用になりました、総務部総務課の大野凜です。

入庁してから、総務課の先輩職員は勿論、他の課の先輩職員、そして同期の皆に助けをいただきながら毎日を生き抜くことが出来ております。この場を借りて感謝申し上げます。

この3か月のなかで、1日として同じ日は無く、毎日庁舎を駆け回っていたように思います。総務課の皆様からは頼むから顔に傷を作らないでくれと強くご指導いただいております。善処いたします。

さて、最近のニュースでも取り上げられておりますが、電力の需給が全国的にひっ迫しているようです。庁舎管理を担当する自分にとっても関係する問題であり、電気料の高騰により市有施設の電力会社の変更を余儀なくされ、電気料の単価が上昇し、市の財政にとって決して小さくない影響がある出来事であります。この財政的な影響を少しでも抑えるため、職員の皆様におかれましては、ナチュラルビズの装いをさせていただき、不要な電気の消灯、退庁の際のパソコンの電源を切ることの徹底など、電気の消費を抑える工夫を行っていただきたいというのが庁舎管理を担う大野凜からのお願いでございます。